

JOCV千葉OB会報

2015年8月
No. 88
夏号

1. JOCV 事業創設 50 周年を迎えて

今年は JOCV 事業創設 50 周年です。千葉県出身の派遣隊員第一号の鋸屋勝さんに寄稿していただきました。

協力隊での経験を振り返って

フィリピン S40-1 土木施工 鋸屋 勝

JOCV 50 周年おめでとうございます。去る 2 月 22 日マニラで記念式典が開催され、久しぶりに懐かしい故郷へ帰省した気分です。式典に参加した。23 日、ラ・ウニオン州を訪問、オルテガ下院議員夫妻の庁舎での夕食会に招かれた。24 日、マンガ植物園で記念式典、会食後「グヤパノの幼苗」を各自 1 本記念植樹した。マニラで感じた事は、高架鉄道ラインの電車に乗車したときの事である。弱者、老人に専用の通路が用意され、一番先頭の客車に乗車できる特権があること、また乗客のマナーのよいことに驚くと同時に感心した。

1965 年、開発途上国の情報は皆無に等しい状況だった。先の戦争の結末に見る東南アジア諸国の人々の強い反日感情の真只中に JOCV は発足した。篠浦公夫初代事務局長は我々に 2 つの事を訓示された。

1. 如何なる事があっても相手国民より優位な立場に立たぬ事
2. 協力隊員は派遣国では指導者でもなければ主役でもない、主役は相手国の人であること

私はこの 2 点を肝に銘じて比国のインフラ業務に専念した。1966 年 2 月 22 日から 3 年間、大統領府地域社会開発庁 (PACD) に在籍した。勤務場所は次の通りである。ルソン島・マウンティン州、ビサヤ地域はセブ市を基地にセブ・レイテ・サマール・ネグロス・パナイ・ボホルの各州、ミンダナオ島・北ダバオ州 (若い力 S44 年 7 月号に掲載)。帰国後は商社に就職。インドネシア森林開発業務として原始林の調査、林道計画、ラワン材の伐採、搬出、日本への輸出を担当した。

1975 年から南カリマンタン経済開発の基幹プロジェクトに

ゼネコンサイドの土木技師として関わった。バリト河河口浚渫工事では河口からジャワ海に 14 KM の航路を建設するものであり、6000 DWT クラスの貨物船を内陸のバンジャルマシン港に入港可能とさせるものだった (円借款プロジェクト)。

1978 年からサウジアラビア・リヤド水資源開発工事、その他バングラデシュ・フェニダム工事等に関わった。

千葉 OB 会には 1980 年頃から参加した。真柄・小松・藤田・木村正・梶野・木村明・並木・高橋・林 各氏その他多くの OB/OG との出会いがあった。1990 年、沖縄総合事務局の業務で沖縄へ転勤になり、千葉 OB 会とは疎遠になったが沖縄 OB 会に入会させてもらいウチナンチュウとも交流を深める事が出来た。50 年を振り返ってみて、協力隊で得た貴重な経験は大いに役立っているが、業務が円滑に遂行できたのも「先の戦争の過去を忘れ、日本人を助けてくれている」多くの国の人々のお陰である。感謝している。

最近 10 年余は環境関連の NPO に入会して東南アジアに出かけ子供たちに「木を植えて育てる心」を育む植林活動に参加している。



鋸屋さん 近影

目次

1. 青年海外協力隊 50 周年に寄せて(初代隊員より)
2. 青年海外協力隊 50 周年に寄せて(副会長より)
3. 活動報告
4. 活動予定
5. 現地活動レポート

H26-1	菅浦理絵子	インドネシア	ソーシャルワーカー	習志野市
H26-3	原田 拓朗	セネガル	コミュニティ開発	佐倉市
H26-3	古澤 圭太	ボリビア	土木	野田市
H26-3	瀬戸 彩子	タンザニア	日本語教育	船橋市
H26-3	花田 成弘	エルサルバドル	コミュニティ開発	印西市
H26-3	藤中 翔太	セネガル	コミュニティ開発	印西市
H26-1	片柳 善啓	キルギス	青少年活動	松戸市
H26-3	佐藤 皓弥	タンザニア	理学療法士	我孫子市
H26-2	角田智恵子	ガーナ	コミュニティ開発	匝瑳市
H26-2	佐橋 良子	エルサルバドル	コミュニティ開発	船橋市

6. 編集後記

2. 青年海外協力隊50周年に寄せて(副会長より)

シリア S52-1 土木施工 成瀬 猛
(青年海外協力隊千葉OV会副会長)

「次のOB会報には会長挨拶ではなく、副会長挨拶にしたいので、原稿を書いてくれ・・・」と、浜田会長に頼まれたのですが、いざ、書こうと思って中々ネタが思いつかないで困っています。今年は青年海外協力隊が発足して50周年を迎えるわけですから、何かおめでたいトピックでも思い付けば、ささっと書けそうなのですが・・・

私が青年海外協力隊に参加したのが1977年ですから、協力隊が発足してから12年目位の隊員になるのです。その時の自分の派遣番号は2000番台だったと記憶しています。それから38年後には派遣隊員数は派遣中も含めて4万人を超えています。実に自分が派遣された12年間の派遣数に比べて、何と20倍にもなったことは、それだけ青年海外協力隊が国民的な事業に定着したことを如実に語っています。それでは、4万人という青年海外協力隊の経験者が日本の社会の中ではどの位の割合で居るかということになると、1億2千万人を4万人で割ると、3千人に1人の割合で居ることになります。この数字が多いか少ないかについては議論の余地がありますが、柏市の人口が約40万人ですから、4万人で割ると、約100人の青年海外協力隊の経験者が柏市内には居るであろうということになります。この人たちが柏市の中でどんなことをおやりになっているのかは全く分かりませんが、恐らく、この中の多くの方が大なり小なりで柏市の国際交流や国際協力に貢献しているに違いありません。例えばですが、私は大学で教えていますが、柏市内の小中学校や高校の先生の中にもきっと何人かの青年海外協力隊の経験者の方が居るに違いありません。そして、柏市の国際交流事業にボランティアで関わっている方も居るに違いありません。勿論、地元企業の中にも間違いなく居るでしょう。そう考えると、50年前に発足した青年海外協力隊が、50年

後の現代では、教育現場や地域の国際化にどれ程役に立つ存在に育ったかが改めて感じられるのではないのでしょうか。

3年ほど前ですが、当時の民主党政権に『無駄』と酷評された青年海外協力隊事業でしたが、現在の日本の国際化の背景には青年海外協力隊の50年の歴史と、延べ4万人の青年海外協力隊のOB・OGの存在があったことは間違いのないのです。

社会は人で作られていますから、人に優しい社会も、国際的に開かれた社会も、戦争ではなく平和を求める社会も、全てはそこに暮らす人々の良識や国際感覚で担われているのです。『人は石垣、人は城』と言われる様に、我々、青年海外協力隊の経験者は、これまでもそうだった様に、これからも日本社会を支え続けていく存在に違いありません。



成瀬副会長 近影

3. 活動報告(2015年1月～7月)

定例行事

JOCV ナビ (協力隊参加希望者相談会)

毎月第4土曜日の14:00～16:00に浦安市国際センターにて開催しています。春と秋の募集期間に相談者が多くなる傾向にありますが、応募者調書作成指導や2次選考のための模擬面接などきめ細かい対応により、毎年複数名の合格者を出しています。アクセスの関係で東京からの相談者も来ます。相談員は原則2名で、1名は元JICA職員でもある年配のOB、もう1名は若手の組み合わせで実施しています。

定例会

奇数月の第4土曜日、16:00～17:00にJOCVナビと同じ浦安市国際センターにて開催しています。参加者はそれほど多くはありませんが、イベントや会報発行に関するなどを協議しています。参加者には交通費を支給していますので、多くのOB/OGに参加してほしいと思っています。

新隊員派遣杜行会

新隊員派遣時の3月と6月に実施しました。ご存知のように、新隊員は出発前に県庁表敬を行いますので、表敬終了後の16:00くらいからモノレール県庁前駅隣の菜の花プラザで開催することがほとんどです。新隊員はOB会会員の卵ですから、出発時から良好な関係を持ちたいと思っています。

その他、各種会合への出席、懇親会などがありました。

4/11～12 協力隊まつり

JICA市ヶ谷にて開催され、関東圏の各県OB会、各国や職種別OB会などたくさんの団体の出展がありました。当会は派遣中隊員活動写真パネル展示や応募相談会を実施しました。会場では民芸品や特産物の販売など異国情緒豊かな雰囲気の中、老若男女多くの人々の来場があり、土日2日間のイベントでしたが盛況のうちに閉幕しました。

4/18 総会開催

浦安市国際センターにて開催、出席者はそれほど多くなく20名でした。名簿上は1,300名もいるのですが、土曜日の午後、家族サービスもあり、仕事のある現役世代が多いので、やむを得ないのだと思います。議事は特段の問題もなく、スムーズに終わりました。

5/24 国際フェスタ CHIBA

千葉県内各大学の持ち回りの感があり、今年は神田外大にて開催されました。千葉県JICAシニアボランティアの会や麗澤大学IECクラブ、千葉県警察など多くの団体の出展があり、当会はいつものように応募相談とパネル展示を行いました。ただ今回はネパール大地震により一時帰国した隊員がいましたので、被災状況説明と募金も行い、千葉県ユネスコ協会を通じてネパール大地震緊急募金に寄付しました。また、スタンプラリーも開催され、多くの子供たちが景品をゲットしようと走り回っていました。

グローバルキッチン(2/8、5/10、7/26 実施)

青年海外協力隊 50 周年記念事業として、JICA 東京と共催で千葉市生涯学習センターにて実施しています。JOCV OB/OG が任国の食文化を紹介し、参加者全員で調理・食事をし、任国の食文化を体験するイベントです。隔月程度の頻度で実施しており、これまで、パラグアイ(2/8)、ベトナム(5/10)、タンザニア(7/26)の食文化を紹介してきました。毎回、協力隊に興味のある方など、定員(30名)以上の参加希望をいただき、好評をいただいています。

パラグアイの紹介内容(2/8)

パラグアイ文化、料理が紹介されました。みんなでマテ茶を飲む習慣も体験しました。パラグアイで流行の音楽を聴きながら、全員で楽しくパラグアイ料理を楽しみました。

紹介料理

チパ・グアス(トウモロコシとチーズで作る主食)
タジャリン(平打パスタ)
アルフォアール(デザート)
コシード(ミルクティ)

**ベトナムの紹介内容(5/10)**

ベトナムの文化・風習の紹介もあり、みんな興味深々でした。日本人にとって、同じアジア圏内であるベトナム料理は比較的親しみがあると思いますが、自分達で一から作ると格別に美味しく感じました。

紹介料理

揚春巻き
フォー
チャー(ココナツミルクのデザート)

**タンザニアの紹介内容(7/26)**

JOCV の OV であり、ウガリ研究者でもある講師による、様々なタンザニア食材の紹介、ウガリの食べ方のレクチャーなど、ディープなタンザニア食文化を体験しました。ムカシキ(串焼肉)を食べながら、参加者全員で歓談したりと、楽しい会となりました。

紹介料理

ウガリ(タンザニアの主食)
カチュンバリ(サラダ)
ムチュジ(スープ)
マボガ(葉野菜炒め)
ムシカキ(串焼肉)



ご協力いただいた講師のみなさま、ありがとうございました!

まだまだ今後もこの企画を続けていきますので、ご協力いただける方は是非ご連絡ください。



グローバルキッチン 参加者全員で記念撮影(2/8)

活動実績の詳細は HP をご覧ください。

4. 活動予定(2015年8月～12月)

定例行事

JOCV ナビ (協力隊参加希望者相談会)

毎月第4土曜日、14:00～16:00、浦安市国際センターにて開催します。今後も多くの相談者が来てくれて、合格者が増えれば良いかと願っています。尚、相談員をやってみたいという方は当会メルアドにアクセスしてください。相談員2名体制ですから、シニアと若手の組み合わせがベストです。相談員には交通費と謝金が支給されます。

定例会

これまで同様に奇数月の第4土曜日、16:00から17:00くらいまで、JOCV ナビ終了後から開催します。活動内容については当会ホームページに掲載していますが、なにか新しいアイデア等があれば是非とも検討したいと思います。年間行事として決まっていることもあります。グローバルキッチンなど JOCV 設立 50 周年記念に実施しているものもありますので、お気軽にお出かけください。

新隊員派遣杜行会

今後も新隊員派遣前の9月と12月に実施予定です。県庁表敬後の16:00から18:00くらいまで千葉県海外協力隊を育てる会と共催で実施しています。場所はだいたい菜の花プラザと決めています。OB会としての出席者が少ないのが悩みですから、ホームページで日程をご確認いただき、ご都合が良ければご参加ください。

グローバルキッチン

派遣国の食文化を紹介し、参加者全員で調理・食事をし、任国の食文化を体験するイベントです。講師や準備を担当していただける方を随時募集中です。次回は9/26(土)にフィリピンをテーマとして実施する予定です。

その他、イベントや各種会合への出席、懇親会など

8/29 JICA ボランティア家族連絡会

13:00よりJICA主催、当会共催で千葉商工会議所第2ホールにて開催します。任国事情など帰国隊員ならではの情報提供のため多くのOB/OGに協力していただいています。千葉県国際協力推進員から依頼がありますので、その際はご協力方よろしくお願ひします。

9月～10月 JICA エッセイコンテスト2015

JICAが毎年全国規模で実施しているものですが、中学生と高校生の部があり、全国のOB会は中学生の部で協力しています。千葉県は毎年2,000部を超える応募があり、1次審査を担当しており、10名くらいの方々に審査員として協力していただいています。当会では1次審査を在宅審査(自宅で応募作品を読んで、数点を選ぶ審査)と集合審査(在宅審査で選ばれた作品を千葉県として2次審査に上げるため、審査員が集まって10数点を選ぶ審査)に分けて実施しています。中学生の作文を読んで選ぶのは大変ですが、脳の活性化には大いに役立っていると思います。(主観的なコメントですが)在宅審査員や集合審査員をやりたい方は当会メールアドレスに連絡ください。

10/3～4 グローバルフェスタ(お台場)

毎年日比谷公園で開催してきた日本で一番大きな国際協力・交流フェスティバルです。外務省からJICA、NGO・NPOなど広場一杯にテントの花が咲きます。昨年のオープニングは、なんと野外音楽堂でAKB48のメンバーも登場して歌と踊りを披露してくれました。今年は場所が変更になるとのことですが、たくさんの出展があり、大いに盛り上がることでしょう。当会も昨年に引き続き、出展します。現在facebook上で関係者が準備を進めています。当会の今年の目玉はとも「チーバ君」のようです。皆さんご存知の赤いコスチュームのゆるキャラですが、酷暑はもう過ぎていると思いますので、チーバ君が大活躍してくれると思います。皆さんも会場に足を運んでください。

11/17 JOCV 創設 50 周年記念行事

JICA 主催の記念式典が横浜パシフィコにて開催されます。現在 JOCV 事務局では式典準備が進められており、全ての帰国隊員に出席依頼文書が送られて来る予定になっています。日本全国から馳せ参じて来る OB/OG が多いと思いますが、千葉県は近い方ですから、多くの会員の出席をお願いします。

最新の活動予定については HP をご覧ください。

4. 現地活動レポート

H26-1 菅浦理絵子 インドネシア ソーシャルワーカー

習志野市

(1) 隊員活動に関すること

私が青年海外協力隊として派遣されたのは、2015年8月。日本からインドネシアの首都ジャカルタまでは飛行機で7時間。さらに飛行機を乗り継ぐこと2時間、スラウェシ島の中心都市マカッサル市で約10か月活動してきました。

マカッサル市はここ数年の急激な経済発展とともに、開発に取り残された多くのストリートチルドレンがあちこちで見られます。マカッサル市のストリートチルドレンは家もあり保護者もいます。ただ、貧困等の理由で働かなければならず、学校にきちんと通えず進級・卒業が出来ないことが問題になっています。また、道路で物乞いをするため、ストリートチルドレン自身が交通事故や排気ガス等による健康被害を受けるリスクも高いです。さらに、地域住民も交通渋滞や強引な物乞いに困っています。これらの問題をどうにか解決しようと、マカッサル市の社会局や、地元NGOが支援策を検討しています。

その中で、私が取り組んでいる活動は、それぞれの団体の支援に協力しながらストリートチルドレンの子供たちが将来への希望を少しでも持てるようにすること、またマカッサル市の人々が協働してストリートチルドレンの問題に取り組めるようにすることです。



ストリートチルドレンの子供たちに向けた地元NGOの課外授業の補助。

子供たちの自尊心を育めるような教育内容を実施しています。

(2) 任国に関すること

インドネシアは国民の約90%がイスラム教徒です。2015年6月18日から1か月間は、断食月。普段はおやつを1日に何回もほおぼるインドネシア人も、日中は水さえも口にしません。断食月は食べ物屋台は日中は閉店、またはカーテンを降ろしてこっそりと店を開けています。(レストランやモールは通常通りですが)日没からは人々が町に繰り出し、お祭りのように屋台が出て、1日の断食明けを楽しむ姿が見られます。

また、イスラム教徒がほとんどのため、アルコール・豚肉は通常の店では売られていません。アルコールは密売所(?)のようところで、豚肉は中華系のインドネシア人の住む地域の市場まで足を運んで購入します。キッチンが共同のため、調理器具等も自分専用のものを使うなどの配慮も必要です。

(3) その他

インドネシアの人々は、すでに発展途上国を抜け出して大国になったという意識とプライドがあります。しかし、その裏では貧富の格差が広まり、様々な未解決の問題があります。そのような国で、「援助をする」という姿勢ではなく、常に相手の文化や仕事を尊重し、その上で自分が「協力する」という姿勢を忘れないように日々活動しています。



日没の断食明けの様子

H26-3 原田拓朗 セネガル コミュニティ開発 佐倉市

(1) 隊員活動に関すること(業務)

私は、セネガルの手工業組合にて活動しています。赴任から5ヶ月以上が経ちましたが、毎日、現地の方々とセネガル料理を食べたり、紅茶を飲んだりしながら、現地に適応しつつあります。言語はまだ未熟で、ウォロフ語で話しては知らない単語や言い回しに出くわし、メモをして、覚えるということを繰り返しています。

ルーガ州には約1万7千人の職人が生活を営んでいます。彼らの多くが小学校を卒業する前に、アトリエに入り込み、見よう見まねで技術を身につけて、やがて独立していきます。しかし、職人の数が多く、需要よりも供給が大きく上回っており、注文が入らず、専門とは関係ない商売をして、収入の穴埋めをしています。また彼らの製品は品質や技術が高いとは言えず、多くのものが代わり映えないものです。そのような経済的・技術的な課題に対して、何かできないかを職人の方々や配属先の方々と考えている段階です。

これまでの活動を少し紹介します。6月には、20人の職人に対して、起業や事業拡大に必要な知識を学んでもらうために「起業家養成講座」という講座を9回に渡って開きました。ワークショップ形式で、マーケティング・コストの計算方法などを勉強してもらいました。また、7月には所得向上のために裁縫職人と新商品を開発し、日本市場に販売するプロジェクトを立ち上げる予定です。アフリカの生地を使った浴衣やアロハシャツを作成しようと考えております。このプロジェクトを通じて、経済的な効果はもちろんですが、日本とセネガル2カ国が互いを

身近に感じてもらえるかという文化的な効果もあると信じています。



(2) 任国に関すること

セネガル人と会うと「チェブ・ジェンは好きか」とよく聞かれます。チェブは米を、ジェンは魚を意味し、文字通り米と魚を使ったセネガル料理を代表する一品です。米と魚に加えて、人参、里芋、ナス、株などを用いたパエリアのような料理です。チェブ・ジェンには「白」と「赤」があり、私はトマトペーストのかかった「赤チェブ」が好きです。セネガルでは直径60cmほどの銀の大皿に料理を載せて、スプーンか手を使いながら、大人数でつついて食べますが、セネガル人は他の人に食べやすいように野菜やお肉を細かく切って食べます。

食事以外の嗜好としての代表格は「アタヤ」と呼ばれるお茶です。茶葉と大量の砂糖を入れて、沸かします。準備ができるまで、「あーでもない、こーでもない」と議論をしたり、冗談をいったりして、お茶が沸くと、ガラスコップにカプチーノ風の泡を作って、回してお茶を飲んでいきます。

このように食事の時にも、お茶会の時にも、セネガル人は「共有すること」を大切にしています。私も残り1年と7ヶ月、セネガルの方々とより多くのことを共有しながら、日々楽しく過ごしたいと思っています。

「ルーガ職人の村」紹介サイト

<http://villageartisanal.wix.com/shokuninomura>



H26-3 古澤圭太 ポリビア 土木 野田市

活動の現況

私は、南米ポリビア、サンタクルス県オキナワ市役所公共事業課にて、土木隊員として活動をしています。ポリビア人の建築士1名、土木技師2名の同僚と共に公共事業の設計・現場監理及び維持監理を行っています。プロジェクトは公共建築物の建築工事から治水工事、下水道工事等、大小多岐にわたります。

赴任から半年間の活動は、日本庭園の設計及び見積り、沖縄県の首里城をモデルとした新市庁舎の設計を行っていました。しかし、6月1日より新市議会議員及び新市長となった事により、市役所職員も総入れ替えとなり、私の所属する公共事業課の同僚も全員入れ替わりました。そのため、私が担当するプロジェクトも一時的に滞っている状態です。また、複数のプロジェクトも工事が滞っており、再会するための準備をしています。同僚とこれらの現状把握をするに連れて、メンテナンスの無考慮、杜撰な現場監理等の問題点が浮き彫りになり、同僚らとこれらの原因究明と改善策を考えている状態です。



測量調査の様子

今後の展望

新たな同僚と人間関係を構築し、私自身の今後の活動計画・内容について方向性を決定して行くためにも、試行錯誤の日々が続いています。特に、同僚の入替えに伴った引継ぎで、顕在化した問題が、設計及び現場監理の技術不足です。設計では、様々な点において無理及び無配慮な設計と図面不足。現場監理では、竣工物と図面の齟齬が起きています。そのため、メンテナンスが困難な状況となり、悪循環に陥っている事が現状として見えてきました。工事現場では、労働者が安全装備もなく働いており、安全管理も課題と言えます。このような問題及び改善点を、同僚らを巻き込んで共に少しずつ変えて行ければと思っています。

任地オキナワについて

オキナワ市は、首都ラパスから飛行機と車を乗継いで東に約3時間、標高約200mの亜熱帯地域にあり、周囲は日系人が耕作する広大な農地と牧場に囲まれています。1954年、アメリカの統治下であった沖縄県からの集団移民が3度の移転を経て、開墾し発展した街です。現在は、日系人約900人が第一移住地から第三移住地の三地区に分かれて生活しており、ボリビア人も含めると人口は約11000人で小さな街です。日系人は故郷の沖縄文化である、ウチナーグチや三線、エイサー等を中心に、多くの日本・沖縄文化を継承しています。そのため、ここに住む多くのボリビア人が日本の習慣や文化に触れる機会が多く、日本や日本人に対して親しみを抱いている人が多くいます。私も、運動会や駅伝大会等、日系の方々行事に参加させていただき、「もう一つのオキナワ」を体験しています。



学校の運動会

H26-3 瀬戸彩子 タンザニア 日本語教育 船橋市

タンザニアから「こんにちは」

■日本語を話すタンザニア人!?

「失礼します。おはようございます。元気ですか?」「今日はさむいですね。」毎朝教室にやって来る学生がかけてくれることばに、ここが東アフリカ・タンザニアであることを一瞬忘れてしまう、そんな毎日を送っている、船橋出身、日本語教育隊員の瀬戸彩子です。

配属先ドドマ大学は、タンザニア国内で唯一日本語を学べる教育機関です。私はここドドマ大学で毎日、文学や文法、翻訳、作文の授業を担当しています。人文学部外国語文学学科日本語コースは2009年に開設され、2012年に1期生3名が卒業、そしてこの11月に2期生5名が卒業します。まだまだ黎明期にあるコースで、課題は山積みですが、学生たちは日々、日本語の単語や文法、日本文化、文学について勉強し、日本事情に対する理解を深めています。

■チナ?コレア??ジャパニ???

任地ドドマの街を歩いているとしばしば「チナ(=スワヒリ語

で中国)!」と言われます。当初は「見た目が同じだから仕方がないか」と思っていたのですが、やがて「人を国名で呼ぶのは失礼なのでは」と感じるようになりました。また、「私は日本人なのに…」と、自分のアイデンティティを認められたいという気持ちを持つようになりました。見た目や文化が似ていても、東アジアにはさまざまな国があり、その中にもさまざまな民族がおり、それぞれがそれぞれのルーツを持っています。人の往来のますます著しい国際社会の一員が、同じ外見だからといって、一つのカテゴリーとして扱ってよいのでしょうか。これは日本で黒人を見て「アフリカ人だ!」と言うのと同じです。アフリカには56の国があり、その中には多くの異なる文化を含んでいます。その多様性を認識する能力を、タンザニアも日本も欠いているのかもしれないと、最近思うようになりました。しかし、日本語を学ぶ学生たちは、東アジア(主に日中韓)のちがいを少なからず理解し、他の人に説明することができます。その様子を見て「外国人」である私はとてもうれしく、心強く思ったと同時に、活動を通じて、せめてこの隊員生活で私が接するタンザニア人には、「多様性を認識する力」を持つようになってほしいと思うようになりました。



授業の様子。5人の学生がこの教室で毎日勉強しています。

■日本語以外のスキルも

ところで、「日本語コース卒業後はどうするの?」とよく聞かれます。学生にとっても就職のことは目下の大きな課題です。タンザニアには日系企業が存在しますが、その数は多くはなく、もし働けたとしても、現地スタッフとして必要なスキルは第一に事務処理能力であるとか。そこで、授業プランニングの際は、言語や文化の知識に加え、タンザニアで社会人として通用するようなスキルを身につけられるよう工夫しています。例えば、配付資料のファイリング(これが意外と皆苦手)や、PCを利用したレポート作り(PCを持たない学生が多いので、機器に触れる機会を提供)、スケジュール管理(ある程度の計画性を持ってもらうため)などです。さらに夏休みには、日本関係機関・日系企業の協力のもと、学生たちは数週間のインターンシップに参加します。インターンの経験を通じて、「オフィスワーク」を感じてもらう予定です。

「日本語」を通じて、学生たちの生活や人生が豊かになることを願いながら、今後も活動していきたいと思えます。



広大なキャンパス。向こうに見えるのはドドマ名物「ライオンロック」。

H26-3 花田成弘 エルサルバドル コミュニティ開発 印西市

私はコミュニティ開発（以前の村落開発）という職種でエルサルバドルとホンジュラスの国境近くのサンタマルタという地域にて活動を行っております。現在行っている具体的な活動はグリーンハウスを持つ農業組合の売り上げ向上と財務管理の強化です。着任当初は売上及び支出の管理は杜撰極まりなく、裏紙に気が向いたときにその日の売り上げを記録していただけでした。それを見た瞬間は、開いた口塞がらなかったのですが、改善の余地は大いにありと前向きに考え、まずはカレンダーに毎日売上を一緒に記入するようにしました。そして支出についても明細と金額を記録するようにし、習慣化を目指しております。しかし毎月月末に手持ちのお金と記録上の金額が合わなかったため、先月から家計簿のように常に現在の手持ち金と照らし合わせられるような記録帳を作成し、使用しております。



貧困地域での有機農業研修

次に、売り上げの向上ですが、こちらは難航しております。と言いますのは、肝心の生産設備に不具合があり野菜の生産が滞っていると、既存の設備では現状以上の生産増加が厳しい為です。同僚の専門家との会議を行ったり、加工品製造の検討もしておりますが、未だ具体的な計画になってはおりません。活動から半年経ちますが、やはり日本のように時間通り、約束通りに進まないことは日常茶飯事ですので、同僚を始めとしたエルサルバドル人の気持ちの寛大さ、臨機応変な対応力に日々感心しております。

また、このエルサルバドルという国に関してはとにかく危ない国だと感じております。なぜなら殺人事件の発生率が異常に高いからです。月によっては600人近くの方が殺されることもあり、日本では考えられないほど「死」が生活の近くに感じられます。従って、時間のある週末に旅行に行くにしても、移動中のバスやタクシー、慣れない土地での観光は楽しみよりも不安の方が大きく、中々心の底からリラックスできる場所がありません。もし観光でこの国を検討されている方がいたら、決してお勧めしません。

最後に、最近ふと考えたことについて。今何が日本から一番欲しいかな、というのを先日考えていました。すでに理解不能になった会議中、話を聞くのを諦め、お風呂・お茶漬け・わさび等々書き始めると手帳のページはすぐにいっぱいになってしまいました。そして数ある候補の中から一番を決めると「冷麺」になりました。数々の美味しい果物や現地の料理はありますが、さっぱりした味付けのものは現地で手に入れるのが難しく、日に日に暑さが増していくにつれ、夏バテ対策の救世主として、いま一番あったらいいなあと感じた次第です。



学生たちとの料理教室

H26-3 藤中翔太 セネガル コミュニティ開発 印西市

アッサラーム・アライクム！（こんにちは！）扇風機は一応こっちを向いているけれども、熱気をかき回すだけで何の役にも立っていません。夜は部屋に熱が籠りまさに熱帯夜。水を服にぶっかけて寝る日々も続く…アフリカと聞いて動物や大自然を想像する人も多いと思いますが、セネガルの多くは砂地で、海沿いを除いてはどこに行っても茶色の世界が続きます。場所によっては気温が45度を超える時もあり、挨拶の中で「今日も暑いですね」と決まって話されます。そんなセネガルで暮らしはじめて半年が経ちました。雨季に入っても雨が降らず、未だにセネガルに来てから雨を見ていません。最近の生活で大きく変わったことは、イスラム教のラマダーンが始まったこと。ラマダーン中30日間は日中に食べの物や飲み物を口にしてはいけません。国民の9割以上がイスラム教徒なので、ラマダーンが始まってからは日中開いている店が少なくなり、食事をとるのが困難になりました。また彼らの前で水を飲むことを控えなければならないため、熱中症にならないように注意して活動をしています。

(2) 任地と活動紹介

任地はセネガル北部に位置するルーガ州コキ村です。コキは国内一有名な宗教村で、全国かイスラム教の子ども達が村のコーラン学校に集まってきます。村の中心では電気は通っていますが、周辺の村落では電気・上下水などのライフラインは整っていません。また塩害のひどい地域で乾季の間は全く畑仕事ができないエリアもあります。そんなコキ村にコミュニティ開発JVとして赴任しています。住民の生活・生計の向上が期待されています。具体的に行っている活動は以下の3つです。

①養鶏の普及

乾季農業が難しいエリアで新規ビジネスとして養鶏の普及と販路の整備を行っています。

②女性団体と布の端切れビジネス

村中に溢れる布切れを集め、帽子やバックを作る女性団体と観光客向けの商品開発と販路整備を行っています。

③乾季農業（レタス・スイカの普及）

売値が高く、簡単に栽培できる作物を調査し普及を支援。また、肥料や苗床の作り方の講習会をおこなっています。

少しずつではありますが住民とのコミュニケーションもとれるようになってきました。今後は、収支の削減のため、燃費のいい改良かまどや家庭菜園の普及に取り組んでいこうと考えています。



コキ村内の道路。砂が深く歩くのが大変です。
ロバ車を使い数キロ離れた井戸まで水を汲みにいきます。
遊牧民も牛や羊などの家畜も放牧されています。



配属先と女性向けに行った農業の講習会の様子。
ラマダーン中でしたが炎天下の中たくさんの人が集まりました。

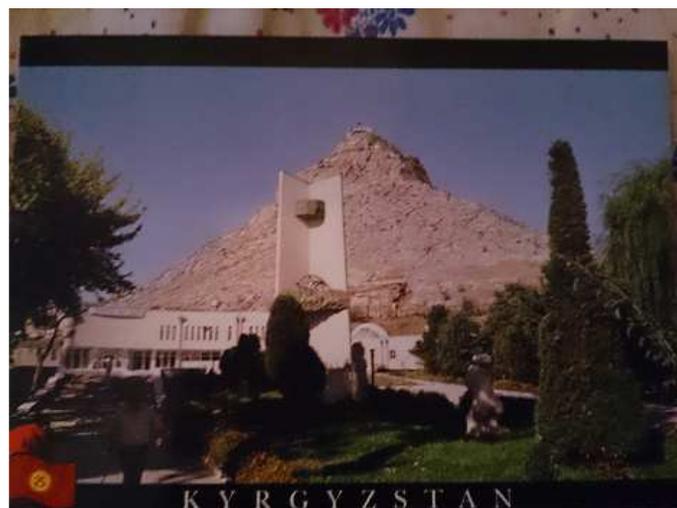
H26-1 片柳善啓 キルギス 青少年活動 松戸市

『イスラム教と私の出会い』

キルギスには、二つの世界文化遺産があります。そのうちの一つが「Sulaiman-Too Sacred Mountain」としてユネスコ（UNESCO）に登録されている「聖なる山スレイマン山」です。キルギス南部のオシュ市近郊にあります。

「スレイマン」と聞いて、私が思い出すのは、オスマン帝国（1299～1922）のスレイマン1世（1494～1566）と、イスタンブールのスレイマン・モスクでした。しかし、スレイマン山のスレイマンとは、『コーラン（クルアーン）』に出てくる預言者の名です。

この山がスレイマン山と呼ばれるようになったのは、18世紀のことであるそうです。イスラム教がこの地に伝わってくる前から、周辺の人々の信仰を集める山でした。預言者スレイマンが長く滞在したという伝説が残っていて、スレイマンの墓とされてきた社などがあります。他にも「預言者スレイマンが訪れた山を訪れてみたいと思っていたが、訪れることができない男がいた。神は、男のために山を男の近くに動かして、山で祈らせた。」という伝説があり、その男が祈ったときの膝と肘の跡が山の石に残っているそうです。その男とは、イスラム教の最高最後の預言者ムハンマド（マホメット、570頃～632）のことです。さらに、頂上にある社に登り、広場で腹ばいになると、健康な子供を授かるとされている伝説もあります。山の木々や茂みには無数の小さな布切れが結び付けられていて、それらは訪れた人々が願掛けで結んでいったものだそうです。日本人には、「スレイマン」よりも、「ソロモン」と言うと、なじみがあるかもしれません。なぜなら、世界史の授業で、イスラエル王国（前922頃～前722）のソロモン王として学ぶからです。このことを知ったとき、ただの知識だった世界史と、イスラム教の文化とを、キルギスで身近に感じる事ができて、私はとても感動したのを覚えています。



スレイマン山

ソロモン王について調べていて、面白いと思ったことがあります。ディズニーのアニメ『アラジン』で、ランプに封印された精霊のジーニーというキャラクターがいます。ジーニーをランプに封印したのは、ソロモン王であるようです。ソロモン王は、悪魔を操る魔法の指輪を使って、72体の悪魔を操り封印したそうです。その悪魔の中に、アスモデウスがいました。アスモデウスはずる賢く、ソロモン王に「お前など指輪がなければ、ただの人間だ。」と言って、挑発しました。すると、ソロモンは怒り、指輪を外してしまったのです。その際に、ベルゼブブという別の悪魔が指輪を奪い、ソロモン王は悪魔を操る力を失ってしまいました。この話から私は、ジーニーのモデルは、アスモデウスではないかと想像して、楽しくなりました。キルギスに来て、私は初めてイスラム教を身近に感じています。これからも、キルギスの皆さんには、キルギスで育った伝統と文化を大切にしてもらいたいと思います。そして、私はこれからもキルギスの素晴らしい文化を学んでいきたいと思っています。



道で羊を追う青年

H26-3 佐藤皓弥 タンザニア 理学療法士 我孫子市

自分は現在タンザニアのドドマという町の州立病院で理学療法士として活動しています。アフリカというと、「暑い」、「危ない」、「食料が少ない」というようなイメージがあるかもしれませんが、個人的には想像していたアフリカのイメージと自分の住んでいるドドマではかなりのギャップがありました。

まず、そこまで暑くはなく、むしろ朝と夜は寒いくらいで、上着や寝るときは毛布が必要です。日中の日差しは強いですが、カラッとした暑さで、日本の夏のようにじめじめしておらず、日陰に入れば風が気持ちが良いです。そのため、街中では日陰には人がたくさんおり、お話ししたり、昼寝したり、みんなのんびりと過ごしています。

次に治安ですが、自分の生活しているドドマは一応首都なのですが、実質上の首都はダルエスサラームであるため、あまり発展しておらず、良い意味で田舎だと思っています。しかし、交通や物流は比較的整っており、買い物や旅行などで大きな不便を感じることはありません。特別な観光スポットがあるわけではありませんが、街中は人が多く、活気もあり、とても良い町で気に入っています。

食料に関しては、物流が整っていることもあり、豊富にある印象です。市場ではいろいろな種類の野菜や果物が山積みになって売られています。やせている人が多いのかと思っていましたが、太っている人がとても多いです。若い人よりも年をとっ

た人の方が太っている人が多いので、ホルモンの関係もあるかと思いますが、やはり一番の原因は食生活かと思っています。タンザニアの一般的な食事はご飯やウガリ（トウモロコシの粉を練ったもの）などの主食を、豆を煮たものや野菜や肉をスープにしたものをおかずにして食べるのですが、主食の割合が多いように感じます。また、おかずの割合が少ないため、味付けも比較的濃いめで、塩や油をたくさん使います。タンザニア人は保守的な人が多いため、食生活を変えることが難しく、食事指導をしても大きく変化がみられない印象です。



そのため、リハビリに来る患者さん達も肥満の方が多く、肥満による腰痛、変形性膝関節症、脳卒中片麻痺の方が多く来られます。タンザニアの理学療法士は日本の理学療法士よりも仕事の範囲が広く、レントゲンの指示や薬の処方、ギブスの作成なども行います。日本では行っていなかったことで、いろいろ苦労していますが、タンザニア人スタッフに助けをもらいながら頑張っています。自分は協力隊として助けに来た立場なのですが、日本の理学療法士にもタンザニアの理学療法士にもそれぞれ良い部分があるかと思っています。あまり、指導するという立場はとらず、日々の業務で話し合いながら協力して行うことによって、お互いに良い部分を伸ばし、成長できればと思っています。



H26-2 角田智恵子 ガーナ コミュニティ開発 匠環市

私のガーナでの協力隊員の活動を紹介します。

現在、ガーナのボルタ州のテフレというボルタ川沿いの小さな町を拠点としている女性の自立支援の活動をする NGO で活動しています。年に一度3か月間の、石鹸作り、ビーズアクセサリ作りなどの職業訓練コースを実施したり、地域の中学校を訪問してリーダーシップ研修を行ったりしています。

今日は、地域の中学校のリーダーシップ研修で行った環境教育のプログラムを紹介します。

ガーナでは、一般的な飲料水として、ビニール袋にパックされたピュアウォーターというものを飲むのが一般的です。これをガーナ人は平均一日1、2袋飲むのですが、飲み終わった袋が、結構な数、路上にポイ捨てされています。ゴミ箱が設置されていることはガーナの首都であっても稀であり、ガーナの地方に行くと皆無です。

生徒におなじみのピュアウォーターの袋を見せて、飲み終わった後、どうしているか？を質問。やはり、路上にポイ捨てするという回答が大多数でした。

そして、ガーナ国外では、ゴミのポイ捨てはマナー違反であったり、違法で罰金がとられる国があることを紹介します。(シンガポールや、タイでのゴミのポイ捨てに罰金が科される事や、大抵の先進国は、街中にゴミ箱がありゴミはそこに捨てる事など)すると生徒達は大体知っていると回答があります。しかし、普段の生活の場面ではあまり意識せずにポイ捨てしてしまうのだということがわかりました。

次に、生徒達が日常生活でよく見るゴミ類(ピュアウォーターの袋、黒い買い物袋、空き缶、空き瓶、新聞、バナナの皮)を見せて、分解されるまでにかかる年数を質問し、予想してもらいみんなに発言してもらいます。生徒達の解答は正解ではないけれどもそう間違っははいませでした。



教材として使ったゴミのサンプルと、ピュアウォーターバックを使用して作ったバック

■ゴミが分解されるまでの時間■

プラスチック袋(ピュアウォーター、黒い買物袋): 450年
空き缶: 10年
空き瓶: 分解されない
新聞: 3か月
バナナの皮: 3か月

ゴミが自然に分解されるまでにかかる年数がわかったところで、これらのゴミを3R(Reuse, Reduce, Recycle)する方法を考えてもらいます。面白い意見がたくさんでました。最後に、3Rの実例を紹介し、ゴミは短時間では分解せずいつまでも残る為、3Rをすることの大切さを理解してもらいました。写真は Trashy Bags という NGO が販売している、ピュアウォーターを70個使用しているエコバックで外国人観光客や、在ガーナ外国人に人気です。

クラスの最後には、ジャンプするカエルの折り紙教室を開催。ガーナではペーパークラフトは一般的でない為、綺麗に折るのが難しいようでしたが、みんな上手に作れました。



できあがったジャンプするカエルの折り紙をもってみんなで記念撮影

H26-2 佐橋良子 エルサルバドル コミュニティ開発

船橋市

私の任地はエルサルバドル共和国、アウアチャパン県サンロレンソ市である。

まず、エルサルバドル共和国(任国)という国を聞いたことがあるだろうか。任国は中米にあり、面積は九州の約半分の大きさで、とても小さい国である。エルサルバドル人はスペイン系白人と先住民の混血の民族が多く、スペイン語を公用語として話す。体格は背丈が日本人と同じくらいで比較的背の低い人が多い。また、肥満率が非常に高い。これは、任国の食文化が深く関連していると思われる。朝と夜はフリーフォーレスという豆と卵、チーズ、クリームとパンまたはトルティージャ(トウモロコシ粉でできた薄いパンのようなもの)を食べ、お昼は鶏肉などの主菜に加え、ちょっとしたサラダとお米、トルティージャを食べる。また、朝食と昼食、昼食と夕食、夕食後におやつを食べる。(私のホームステイ先でチョコバナナを売ってい

た時期があり、夜の9時、10時に子供たちが買いに来ることもあった)さらにこれらの食事と共に炭酸飲料水を飲む。野菜をほとんど摂取しないことと、間食の多さ、脂質と糖分の多量摂取がこの国の肥満率を上げていると思われる。同僚も仕事中に果物やププサ(トウモロコシ粉でできたおやき)、クッキー、菓子パン…を食べている。同僚と出かけるときは、必ずおやつを勧められ、食べることになる。本当に常に何か食べている状態であるため、確実に胃が大きくなっている…食べた分だけ運動しなければ…と思いつつながら、なかなか出来ずにいる…今日この頃である。



ホコテ狩りにいった際の集合写真
持っているのはサンロレンソ市の旗

さて、任地での活動であるが、ホコテ(果物)とロロコ(食用花)の販売促進を通した一村一品運動の推進活動を行っている。主に一村一品運動委員会の組織強化、ホコテ祭り・ロロコ祭りの運営強化、またホコテ・ロロコ狩り、ガストロノミコ(屋台)の開催を通して観光促進を行っている。任地の経済状況は良い状態でないのに、観光に行くと言っても、川に自分達のご飯を持って行き、観光地で消費活動をしないことが多い。観光促進をするのは非常に難しい。観光客が来て、ガストロノミコ(屋台)祭りを開いても、観光客は消費しないことも多い。しかし、任地の人の中には「自分達がサンロレンソ市の観光を創り上げているのだ」と誇りをもって働いている人もいます。そんな人達を見て、諦めそうになっていた自分の気持ちを立て直して、少しでも任地の人のために…と協力できることを探す毎日である。



村の観光地へのテレビ取材の様子

6.編集後記

会報夏号、いかがでしたでしょうか? 会報に関するアイデア、投稿を随時お待ちしております。会報発行をリードしていきたいという方も募集中です。今年も新たに活動に参加するOB/OGが増えて、賑やかになってまいりました。2015年度後半は定例のイベントに加え、お台場で開催される国内最大級の国際協カイベント“グローバルフェスタ”への出展(チーバ君へ協力依頼中)、JOCV50周年記念イベントとして実施しているグローバルキッチン、バーベキュー等、盛り上がる行事が目白押しです。活動に少しでも興味のある方は、定例会やイベント情報をHP・facebook・メーリングリストでご案内していますので、是非ご確認ください。

(H15-1 マーシャル諸島 理数科教師 鳥飼 恵美子)

～お知らせ～

ホームページのご紹介

定例会/協力隊ナビ/講演会/懇親会等、各種イベントのスケジュールや、活動報告を掲載しています。
青年海外協力隊 千葉 OB 会 ホームページ: <http://www.jocvchiba.net/>

facebook グループのご案内

情報交換を目的に Facebook グループを作成しています。是非ともご参加ください。
青年海外協力隊 千葉 OB/OG 会! : <https://www.facebook.com/groups/602920879760218/>

連絡先

お問い合わせや会報への寄稿は info@jocvchiba.net までお願いします。